インフォメーション

問い合せ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010／FAX 022-268-4042　Mail sendai@sapo-sen.jp

サポセンスタッフから

サポセンってどんなところ？ まずは、中に入ってみてください！

サポセンは、「自分たちの住むまちや社会を、もっと良くしたい」、そんな市民の自発的な活動を応援する施設です。例えば、街のごみ拾いをするボランティア団体、子育てサークル、障がいや疾患などによって抱える悩みを解決するための自助グループなど様々な団体が利用しています。（小田嶋）

● 中に入ればたくさんの情報がお出迎え！

入ってすぐの1階マチノワひろばでは、市民活動団体から受け付けたイベントチラシやニューズレターなどを配架しています。ぜひフラっと立寄って、気になったものをお持ち帰りください。団体についてより詳しく知りたい人は、3階の情報サロンへどうぞ！仙台市内外の市民活動団体・NPOの情報や、ニューズレターのバックナンバーを取り揃えています。

● 活動の幅を広げるイベントや講座を開催しています！

活動を始める一歩を踏み出したいときに参考にできるワークショップやトークイベントの他、活動に必要なノウハウを基礎から学べる講座を開いています。多様な分野で活動する団体と出会える交流会など、まちづくりに関わる市民が繋がる場も提供しています。チラシの他、ホームページ等で告知しますのでお見逃しなく。

● 思いを整理し、課題解決のお手伝いをします！

団体の活動初期の悩みから、法人設立や助成金の申請方法など、幅広い相談を受け付けています。「こんなことがしてみたい」という想いはあるけれど、始め方がわからない。活動はしているけれど、うまくいかない。そんな時は、一度ご相談ください。考えを一緒に整理し、課題解決をサポートします。

仙台市市民活動サポートセンター開館20周年記念誌「マチノワ 20年のあゆみ」を発行しました。

1999年3月に「仙台市市民公益活動の推進に関する条例」が制定されました。サポセンは、市民活動を支援するための拠点施設として同年6月に開館し、2019年6月には、開館20年を迎えました。20年の間に、東日本大震災や「仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例」の改正など様々なことがありました。本記念誌では、これまでの感謝を伝えるとともに、行政、NPO、地域の人たちと一緒につくってきたサポセンのあゆみを振り返ります。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。
「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日　4月8日（水）、22日（水）

開館時間	月曜日～土曜日 9:00-22:00 日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日	毎月第2・第4水曜日（祝日の場合は翌日木曜日）年末年始

〒980-0811　仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010　FAX 022-268-4042
[ホームページ]https://sapo-sen.jp
[サポセンブログ＠仙台]https://blog.canpan.info/fukkou/
[ツイッター]@SCSC4CA

「ぱれっと」バックナンバーは
ホームページから
ダウンロードできます。

「ぱれっと」は、市民ライターと協働で制作しています。ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行　仙台市市民活動サポートセンター
（指定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター）
発行日　2020年4月1日
デザイン　PEACE Inc.

ぱれっと 4

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと　2020 No.248

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）にいろいろな人が集まり、
それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

仙台をワクワクさせる人物をご紹介します

今月のワクワクビト

子どもの夢をかなえるプロジェクト　ゆめのおむすび　代表

宮田 菫子（みやた すみれこ）さん（23）

その子が向き合っている今に、寄り添いたい

宮田さんは、青葉区春日町で月1回、「友達とうまく関われない」「授業が理解しづらい」など多様な悩みを抱える子どもたちの居場所をつくる活動をしています。子どもたちと様々なレクリエーションをしながら、「休日は何してた？」「今何にハマっているの？」などと問いかけ、喋ることが苦手で普段は自分を出せずにいる子に、自分のペースで話せるよう導きます。
大学で特別支援教育学を学び、普段は「就労支援型」放課後等デイサービスで働く宮田さんがいつも気にかけるのは、子どもたちが口にする“面倒くさい”という言葉です。「人と同じようにできないことを理解してもらえず、その子の今の状況に合った適切なサポートと理解者を得られないまま否定されつづけることで、どうせ自分はダメなんだと思い込んでしまう」と、感じてきました。
この場所で増やしたいのは、ここに居ても良いという安心感と自信。「それを基に、ゆっくり自分の可能性を広げ、悩みを解決する自分なりの方法をみつけてほしい」と、子どもたちの成長を見守ります。

取材・文　小田嶋くるみ

子どもの夢をかなえるプロジェクト　ゆめのおむすび

URL https://yumeno-omusubi.jimdofree.com　Mail yumeno.omusubi@gmail.com
発達障害の傾向はあるものの、診断には至らない「発達障がいグレーゾーン」といわれる子どもをはじめ、様々な悩みを持つ子どもと、その家族のための場所です。音楽や工作、スポーツの他、学習サポートも行っています。活動情報はHPで確認できるほか、LINE公式アカウントを友だち追加すると、行事予定のお知らせが届きます。

LINE友だち追加

特集　地産地消の再生可能エネルギーで、地域の未来を明るく照らす

特集

地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

地産地消の再生可能エネルギーで、地域の未来を明るく照らす

2016年4月、電力自由化によって家庭でも電力会社を自由に選択できるようになりました。それは、電気を買い求める相手を個人の生活スタイルや価値観で選ぶことができるようになったということでもあります。原子力、火力、太陽光など様々なエネルギー源がある中で、太陽光、水力、生物資源といった枯渇しない、または再生可能な資源を活用した発電方法が注目されています。自分の生活を自分で支える、エネルギーの自立を目指す取り組みを紹介します。

自然エネルギーで地域社会を変えたい

みやぎ地域・市民電力連絡会

共同代表

NPO法人きらきら発電・市民共同発電所 理事長
みとべひでとし
水戸部秀利さん

×

NPO法人おながわ・市民共同発電所 理事
たかのひろし
髙野博さん

×

ひっぽ電力株式会社
かながみたかし
金上孝さん

×

事務局長

みやぎ地域エネルギー合同会社 代表
うらいあきら
浦井彰さん

×

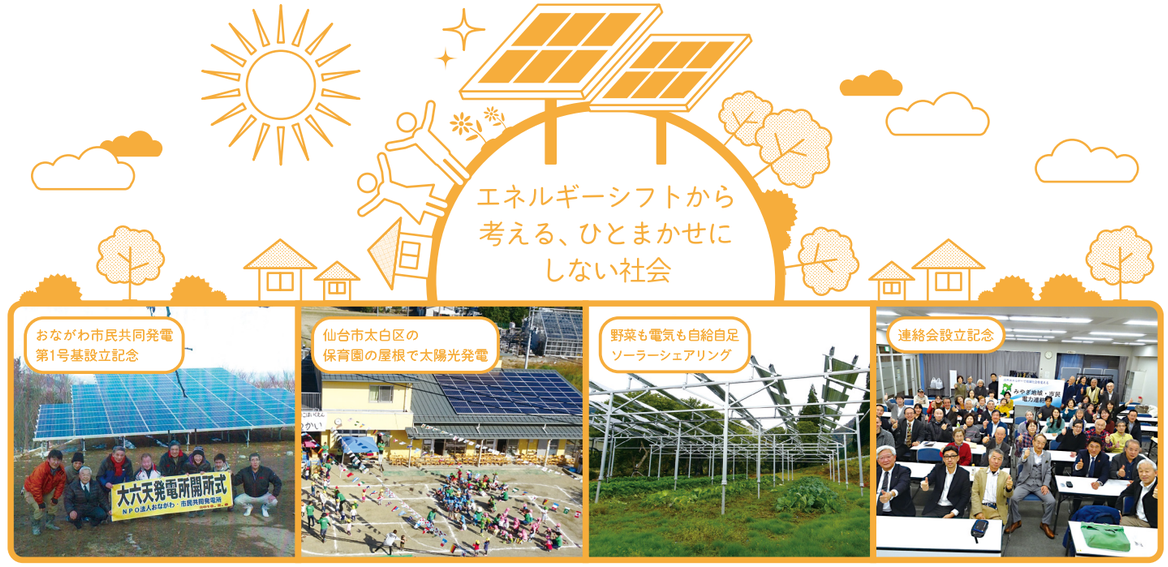
事務局

NPO法人きらきら発電・市民共同発電所 理事
ひろはたあやる
広幡文さん

持続可能な地域社会実現のためのエネルギー事業

2019年12月、宮城県にある4つの市民・地域共同発電所が連携し、「みやぎ地域・市民電力連絡会」(以下、連絡会)を結成しました。市民・地域共同発電所とは、市民が基金や寄付金を出し合い、エネルギーの生産者になるというもの。その生産者が連携するのが連絡会です。地域で電力とお金が循環する、持続可能な地域社会を目指して、4つの団体が現在取り組むのは太陽光発電です。

2015年、市民・地域共同発電所を県内で初めて設立したのは、NPO法人きらきら発電・市民共同発電所(以下、きらきら発電)です。山形県の市民発電所に協力し、畑に太陽光発電機を設置。野菜も電気も自給自足する「ソーラーシェアリング」を実験中です。きらきら発電の水戸部秀利さんは「安心安全なエネルギーを望む多くの人が投資してくれた。市民の心意気に支えられた」と胸を熱くします。女川町のNPO法人おながわ・市民共同発電所(以下、おながわ市民共同発電)でも、予想を上回る寄付金や支援があり、売電利益は地域へ還元。女川町教育委員会と協力して、「おひさま奨学金」を設立し、女川出身の大学生や専門学校生に返金不要で、それぞれに年間2万円付与しています。丸森町筆甫(ひっぽ)地区の、ひっぽ電力発電所(以下、ひっぽ電力)は、13基の太陽光発電を建設し、雇用も創出。これまで積み上げた利益は、2019年の台風被害の経験から地元の防災支援に活用されます。この3団体が電力会社への売電で利益を得るのに対し、仙台市の、みやぎ地域エネルギー合同会社は、自家消費型の発電所を立ち上げました。生活協同組合あいコープみやぎの倉庫の屋根に太陽光パネルを設置し、発電した電気は直接その建物内で利用できます。代表の浦井彰さんは「電気をつくることだけが目的ではない。太陽や風、水といった自然にある“ただのもの”がエネルギーになることに気づいてほしい」と話します。



連携することで、新しいステージに向かう

再生可能エネルギー事業にそれぞれが取り組むきっかけになったのは、2011年3月に発生した東日本大震災の経験でした。当たり前のように消費していた電気が使えなくなったとき、無自覚に電気を供給されていたことに気づき「どこで、どんな資源からつくられているのか」を原発事故から考えさせられました。

連携を持ち掛けたのは、浦井さんでした。「ただの儲け主義ではなく、お互い地域のために、という共通理念があった」と、連携の理由を明かします。例えば、筆甫地区は、過疎化が進む山間部にあります。震災後、原発事故の風評被害から畜産や農業が疲弊。地元資源の木材を使ったバイオマス発電を「地域の魅力づくりにしよう」と、素人ばかりで2016年に設立しました。まずは事業の起爆剤にと、太陽光発電に着手。しかし、たくさんの休耕地がありながら、法規制で農地の多くは使用許可がおりません。そのため、大手外資が手がける発電所では、山を削って太陽光パネルを設置しています。結果、大雨で土砂災害が起きやすくなっています。ひっぽ電力の金上孝さんは、「農地法の規制緩和へと大きく躍進するためには、他の団体と連携する必要があった」と話します。

女川町には原発がありますが、原発への反対、賛成を問わず、市民・地域共同発電所に住民が参画しています。おながわ市民共同発電事務局の髙野博さんは、「どちらか一方では争いが終わらない。新たな道を目指したい」と、未来を見つめます。地域住民、地元企業からの支援で、2016年12月に法人化。次は、3つ目の太陽光発電所建設に挑戦します。髙野さんは、「きらきら発電さんには、発電所設立に関わる知識や技術を一から教わった。今後は、他の市民発電所の皆さんと共に再生可能エネルギー普及の一助となりたい」と連携に意欲を燃やします。

地産地消のエネルギーで、地域での暮らしを実現する

きらきら発電の広幡文さんは、「電気に形はないが、再生可能エネルギーを扱う電力会社を選択することはできる。市場にシェアが広がれば、電気の在り方を変えられる」と話します。連絡会は、「宮城県の顔」として、市民向けの学習会、県内外に向けて発電所の設立支援、自治体への政策提言をし、再生可能エネルギー普及に尽力します。　(取材・文　水原のぞみ)

●みやぎ地域・市民電力連絡会事務局 みやぎ地域エネルギー合同会社
Mail urai@miyaene.co.jp（連絡会事務局長 浦井）

サポセン主催イベントの参加者から「私のあしあと」

ボランティア活動のイメージに変化

宮城県は災害が多く、ボランティアには興味がありましたが、ハードルが高いと感じていました。2019年9月、自宅にあった「市政だより」に、ボランティアという見出しを見つけて、即、申し込みました。使用済み切手の台紙をハサミで切って整えるというものです。ボランティアといえば、災害ボランティアだと思っていたので、こんなボランティアもあるのかと新鮮でした。今後は、時間が合えば、災害ボランティアにも参加してみたいと思います。

「ちょっと。ボランティア」2019年9月21日開催／仙台JOCS「きってきっぺ」ボランティア体験／参加者
佐藤さん 仙台市在住　40代(男性)

サポセン蔵書から活動に役立つ書籍をご紹介します

地域をちょっと動かすプロジェクトのはじめかた つづけかた たたみかた

多賀城をあそぶプロジェクトは、2012年1月に「多賀城市をもっと面白くしよう」と3人のメンバーが始めた活動です。2015年12月に活動を終えるまでの約3年間を振り返り、自分たちがどうやって活動をはじめ、発展させ、終わらせたかについて紹介しています。活動での成功・失敗談や、会計管理、情報発信の方法などを、実体験をもとに知ることができます。「活動をはじめてみたい」、「活動が行き詰っている」そんな人におすすめの一冊です。

発行・編集:多賀城をあそぶプロジェクト

活動現場から「このたび、カタチになりまして」

荒町さんぽ -名物店主に会いに行こう！荒町商店街MAP-

若林区荒町の魅力を伝えようと集まった有志、「荒町エリア発信隊」が荒町商店街MAPを作成しました。登場するのは荒町の名物店主たち。副編集長の鈴木ゆき子さんは、「美味しいものを食べて、商店街でお話をして、歩く度に元気になる荒町は、私にとってのパワースポット」と言います。MAPを片手に、商店主たちとの出会いを楽しんでみてはいかがでしょうか?

発行・編集:荒町エリア発信隊
荒町エリア発信隊事務局「Hostel KIKO」
HP https://www.hostelkiko.com/
※MAPはホームページからダウンロードできます。

活動を支える、人、モノ、こと、を募集して

子どもの一時預かりの活動 託児スタッフ募集中

「わらべっこ」では、イベントを実施する各種団体の指定場所での、子どもの一時預かりの活動をしています。シニアを中心とした多世代の有資格者や、経験豊かなスタッフ20数名で活動中。未経験の人も、先輩と最低2人での活動なので安心。子どもが大好きな方におすすめです。

＜問い合せ・申込み先＞　わらべっこ
仙台市太白区袋原字内手6-2
TEL 070-5476-3172
(担当:事務局長 千葉)

▲「ご両親にリフレッシュしてほしい」と、奮闘中です。